

～水稻品質向上・収量安定対策～

斑点米カメムシはお米の品質を低下させる斑点米の原因となります

斑点米カメムシの防除を心がけましょう。



斑点米

今年も過去10年間で最も多くカメムシが確認されています。出穂期に入ると、さらなるカメムシの飛来が予想されます。

対策



愛知県で散見される主な斑点米カメムシ類

○カメムシは水田周辺の畦畔や土手などのイネ科雑草に生息します。出穂間際又は出穂後の除草はカメムシを逆に水田に追い込むこととなりますので、**出穂の2週間前までに**除草をしてカメムシの棲みかをなくしましょう。

畦畔や水田内でカメムシを確認したら、穂揃期(キラップ粒剤は出穂10日前～出穂期)に薬剤防除を実施し、その後も発生が多い場合は7～10日後に追加防除を心がけましょう。

主なカメムシ防除薬剤

平成25年8月7日現在

薬剤名	希釈倍数または10a当りの使用量	収穫前日数	使用回数
キラップ粒剤*1	3kg/10a	14日前	2回以内
キラップフロアブル*1	1000～2000倍	14日前	2回以内
スタークル粒剤*2	3kg/10a	7日前	3回以内
スタークル1キロH粒*2	1kg/10a	7日前	3回以内
スタークル豆つぶ*2	250g/10a	7日前	3回以内

*1 エチプロールを含む農薬の総使用回数:2回以内 (移植時までの処理は1回以内)

*2 ジメトランを含む農薬の総使用回数:4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)

農薬の散布にあたっては、ラベルの表示事項を守るとともに他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。

JAグループ愛知